

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ぬくもりの郷 (ぬくっこ)				公表日	令和7年 3月 31日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	3	1	現在の定員数に関しては適切だと思う。	基準は満たしているが、手狭に感じる。活動するには手狭である。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4		人員配置を順守している。	利用する時間帯は、常勤2名と非常勤2～3名でおこなっているが、長期休暇や祝日に関しては、非常勤が出動するまで、常勤2名で対応している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	2	2	視覚的情報伝達を工夫している。バリアフリー化はされている。利用児にはホワイトボードで流れを知らせている。また、言葉だけの理解が難しい利用児に対しては、写真や絵を用いて知らせている。	車いす利用には適していない。もともと放課後等デイサービス用に建てられた建物ではなく、不自由に感じるところがある。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4		清掃をこまめに行い、清潔を保っている。掃除や消毒は毎日おこなっている。また、自由時間は、クッションを使って横になれるスペースがある。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	3	1	部屋ではないが、アコーディオンカーテンで仕切ることができ、広いデッキが併設されているので、利用児は落ち着くことのできる場所がある。	訓練室以外にもウッドデッキや更衣スペースなどに行くことはできるが、完全にひとりになれる空間はない。環境的に難しい。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	1	3		現場の常勤2人で進めてしまうことが多く、広くはない。概ねできているが不十分なところがある。常勤2名のため、非常勤は参画できていない。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	1	保護者向けアンケートを実施している。年1回利用者満足度調査を実施している。	年に1回、保護者アンケートを取っているが、改善を見いだす回答がないため。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		自己申告書の提出により把握している。常勤職員は、毎日話し合いをする機会がある。非常勤については、支援前の時間帯に話を聞くことができる。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	2	定期的に実施している。3年に1度第三者評価を受審している。	3年に1度の第三者評価を受審しているが、今年度は期間外のため自己評価のみ行っている。令和4年に第三者評価を受審した。改善を求められている保護者が事業所の活動や行事に参加することは、難しい。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	3	1	適切な研修参加を行っている。Web講座にて研修を実施している。	非常勤職員に関しては、サボカレを視聴しての研修をおこなっているが、研修の回数が少ないため、十分とはいえない。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	2	2	ホームページ上で公表している。	作成中。2月中に公表予定。概ねできているが公表には至っていない。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	4		半年に1度、保護者との面談をおこない、その中からニーズや課題を見つけている。利用児に関しては、日々の支援の中から見つけている。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4		支援計画の作成は、担当職員でおこない、上司、児童発達支援管理責任者が修正、確認をおこなっている。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4		非常勤も含め個別支援計画の確認により共有を図っている。計画を非常勤職員にも共有している。新たな支援計画を作成したときには、非常勤職員も目を通す事業日誌にはさみ、読んだらサインをするようにしている。	非常勤も含めた現場内での話し合いの機会は少ない。	

適切な支援の提供	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3	1	事前アセスメントで入所時の状況を把握し、日々の様子を記録することで変化や現状を確認している。 事業日誌に日々の様子を残したり、愛ちゃんにケース記録として残したり、そこから半年の様子をアセスメントしている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	3	1		地域支援・地域連携に関する支援内容が設定しにくく、ほぼない。 「地域支援・地域連携」が弱い。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4		常勤職員で日々の会話の中でおこなったり、長期休暇の活動に関しては、以前に行った時の利用児たちの様子を踏まえ、計画している。	常勤2人で立てているため、広がりには乏しい。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	3	1	飽きないように工夫している。 個別課題、運動をおこなう時間を設け、その中で活動内容を変えている。	おでかけ先を開拓したが、室内活動はあまり広がってはいない。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4		活動プログラムは共通しているが、本人の調子によって不参加も選択肢としている。 個別課題と歩行や運動をする時間を設けている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4		学校があるときには、支援前に十分に話し合う時間がある。また、長期休暇のときは前日に確認をおこなっている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4		事業日誌にその日の利用児の様子を残している。 事業日誌を作成している。	非常勤職員と振り返りを行う時間が取れないため、常勤職員間での振り返りばかりになっている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	3	1	記録をとり、全職員に周知をしている。 事業日誌にその日の利用児の様子を残している。また、欠席連絡があった場合は、愛ちゃんにケース記録として残している。	記録は残しているが、支援中心ではなく児童の様子中心である。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4		半年に一度、モニタリングをおこなっている。 それに沿って次の計画を作成している。 半年に1度は面談を行いモニタリング・計画書の見直しをおこなっている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	3	1		「地域交流の機会の提供」が弱い。
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	4		課題については、自分のやりたい課題を選択できるようにしている。おやつも数種類ある中から選んでいる。		
関係機関や保護者との	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4		常勤職員2人で参加するようにしている。 自立支援協議会の会合に積極的に参加している。 常勤の職員が参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	1	3		相談支援専門員との連絡は密にとっているが、学校とは様子の申し送り程度であり、他の医療機関等とは連携が取れていない。 十分とはいえない。 医療に関しては、主治医と話をすることがない。 連携は整えているが十分とは言えない。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	3	1	基本的に学校からではなく、保護者からの情報提供とHPからの情報取得により対応している。 送迎時間の誤りがあった時には連絡がある。 安特の年間行事計画はホームページから印刷している。他の中学校は担任から月ごとの行事予定、下校時刻を紙ベースでもらえる。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	1	3	対象外ではあるが、特別支援学校中等部から高等部へ上がった児童に関しては情報を取得することがある。	中等部、高等部対象の放ディのため。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4		移行する前に担当者会議をおこなっている。 体験会などの企画を実施している。	

連携	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	1	相談員が作成した支援計画をもとに個別支援計画を作成している。 年に1回担当者会議をおこなっている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		4		同じ公園などで別々に遊ぶ程度である。 中等部、高等部対象の放ディのため、利用ができない。
	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	4		担当者が参加し、中心となって活動に取り組んでいる。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	4		連絡帳や送っていったときにその日の様子を保護者に伝えることができ、保護者からも家庭での様子を聞くことができる。 連絡帳にてその日の出来事を適宜報告している。また送迎に口頭にて説明することもある。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	1	情報提供をおこなっている。	相談を受ければ助言をしており、面談時にも助言をする程度で、積極的な支援は行っていない。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4		契約時に説明をおこなっている。	契約時に1度だけであるため、年に1度はできるとよい。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の視点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4		常に把握する努力はしている。家族の意向は面談時に、本人の意向は日頃の活動中などに確認することが多い。 半年に一度の面談だけではなく、日頃の送りの際にも確認する機会がある。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	4		支援計画を2部作成し、保護者の同意を得てから保護者、事業所それぞれが保管している。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4		半年に一度の面談だけではなく、送りのときや電話でのやり取りで相談に応じている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。		4		父母の会がない。 父母の会、保護者会はない。 特に提供する機会はないが保護者同士、安特のバス停での関わりはある。 郷の行事に参加した保護者同士は、関わりを持つことができる。 保護者会などはない。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	3		今の所、苦情がない。 苦情があった時の対応は、保護者にも重要事項説明書や掲示によって、知らせている。 苦情受付の流れ、様式は規程にて整備されている。	苦情は出ていないが、ないのは本当に苦情がないのか、周知が少ないためなのかどうかはわからない。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	3	1	定期的にめぐっこ便りを発信している。 ホームページでおこなっている。	活動時の様子などは毎回伝えるようにしているが、通信やHP、SNSでの発信は少ない。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4		個人情報保護規程を遵守している。 個人情報保護規程があり、職員への周知はできている。 保護者にも個人情報の取り扱いについて説明をおこなっている。 契約時に個人情報使用同意書をもらっている。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4		日本語が不自由な保護者に対して、表現を工夫したり仲介役に入ってもらったりしている。 言葉の理解が難しい利用児には、写真を用いたり、実物を見せたりして情報を伝えている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		4		母体事業所としての行事はあるが、放課後等デイサービスとしての行事は行われていない。 放ディとしての行事はない。

非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	2	2		マニュアルの策定と訓練は行われているが、周知は不十分だと思われる。 マニュアルはあるが、想定した訓練は実施していない。 マニュアルは策定されているが、周知は職員までに止まり家族まででは周知に至っていない。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4		多機能事業所の計画に準拠している。 業務継続計画は策定されている。水や食料の備蓄はある。 定期的に避難訓練をおこなっている。 今年度BCPを策定している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4		契約時のアセスメントで確認をしている。 服薬している利用児は朝、夕の服薬になっている。 アセスメントをとっている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	2	2	アセスメントで把握している。 現在重篤になるアレルギー児はなく、甲殻類のアレルギー児は、かっぱえびせんは食べられない。 宗教上食べられない利用児はおやつを持参。	対象児童なし。 医師の指示書までは頂いていない。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3	1		計画はあるが非常勤職員を含めると研修がおこなわれていない。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	2	2		周知が不十分だと思われる。 台風の対応は保護者に知らせているが、その他（地震・火災）については知らせていない。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4		ヒヤリハットの様式の中に、再発防止について記入する欄がある。事例は回覧している。	件数が少ない。 ヒヤリハットの件数は少なく提出しやすいシステム作りが必要である。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4		法人内の権利擁護委員会に担当者が参画している。 非常勤職員も含め、研修をおこなっている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4		契約時に保護者に説明をおこなっている。 半年に一度の個別支援計画の中に記載されている。 面談時に保護者に丁寧な説明を行い理解と了承をえて支援計画書に記載している。		